

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：ダダーブ難民キャンプに滞在する難民と、キャンプ周辺地域に居住するホストコミュニティ住民の住環境を改善する。 達成度：100% 当初の計画では、ダダーブ難民キャンプに滞在する難民に対し、仮設住宅を292戸建設する予定であったが、最終的に600戸を建設し難民の住環境を改善することができた。ホストコミュニティの住環境については、160名の若者を対象としてISSBブロック（Interlocking Stabilized Soil Block：凹凸を利用して積み上げるブロック）製造研修を実施する予定だったところ、最終的には192名の研修生が研修の全工程を修了することができた。これにより、事業終了時には研修生の中から有志による3つの生計グループが立ち上げられ、ISSBブロックを生計手段として考える機会を提供するに至った。これは、2018年3月16日から「日本NGO連携無償資金協力」で開始した後続事業へのはずみとなっている。
(2) 事業内容	本事業では8月8日に実施された大統領選挙投票日前までに、ダダーブ難民キャンプの最北端に位置するダガハレとその南にあるIF01にそれぞれ150戸ずつ、当初の計画を8戸上回る300戸の仮設住宅を建設することができた。その後、経費配分と事業期間延長の変更申請を経て、2018年2月までに追加の300戸を、ダガハレとIF01に150戸ずつ建設した。これらの建設には、今まで同様難民とホストコミュニティの住民による建設グループに依頼をし、双方のコミュニティが仮設住宅の建設を通して、雇用機会及び収入創出の場として裨益できるよう配慮した。 ISSBブロックの製造技術普及においては、研修施設整備や研修生選抜をめぐるホストコミュニティとの調整に予定以上の時間を有し、且つ2度にわたる大統領選挙の影響を受けたが、事業期間を1か月半延長することで対応した。この結果、当初の予定160名を32名上回る192名の研修生が卒業証書を手にすることができた。ISSBブロック製造研修は、座学と製造技術の両方を学ぶコースで構成し、一クラス約40名が22日間にわたって受講し、これを事業期間中に合計5回行った。また、ホストコミュニティに対して生計支援事業などを行っている地元NGOのRRDO (Relief, Reconstruction and Development Organization)と提携し、起業をするために必要な初級者向けビジネスマネジメントの講義を開催し、ISSBブロック製造研修を受講した研修生、及び男性研修生と一緒に力仕事をするブロック製造研修の参加をためらった女性など合計238名が、5日間の講義を受講した。
(3) 達成された成果	① 難民キャンプにおける脆弱な難民世帯への仮設住宅提供 【期待される成果】達成度205% 600世帯（3,418人）が仮設住宅で暮らせるようになり、スフィア・スタンダードで定義される最低限の生活空間が獲得された。 【成果を測る指標】 ・完成した仮設住宅の戸数：600戸（3,418人） ・使用されている仮設住宅の割合：205%

	・スフィア・スタンダードで定義される最低限の生活空間（1人あたり3.5平方メートルを超える居住空間）を新たに獲得した難民の世帯数：600世帯 【副次的効果】 ・ホストコミュニティと難民、支援団体との協力関係・信頼の構築。 ・衛生面の向上。 ・強盗・害虫からの保護。 ・十分な空間の確保による精神的安定及び慣習の尊重。 【確認方法】 ・事業期間中に戸別訪問を行い使用状況を確認した。 ・居住者が、譲渡証明書に署名した難民自身であることをモニタリングで確認した。 ②ホストコミュニティを対象としたブロック製造技術普及 【期待される成果】 ・192人（38－39人×5回）の研修を行い、ホストコミュニティ住民が研修に参加し、ISSBブロック製造技術を身につけた。 【成果を測る指標】 ・研修の参加者数：192人 ・研修を通してISSBブロック製造技術を身につけた人数：192人 ・参加者の研修修了率：107% 【副次的効果】 ・ホストコミュニティ内でISSBブロックが安価で耐久性の高い建設用ブロックとして認知されつつある。 ・研修修了者の中から3つの生計グループが設立された。 ・雇用の機会に恵まれない若者たちにとって、本事業が彼らの職業訓練の場として活用され、自らの手で雇用を創出しようという機運をもたらしている。 ・本事業で研修生が製造したISSBブロック約5000個を使用し、ダダーブ内の女子高校に、教室1棟と厨房軒倉庫を増築した。（なおこの増築工事はIOMの資金によって完成した。） 【確認方法】 ・研修の出席表および修了証書を確認した。
（4）持続発展性	本事業で建設した600戸の仮設住宅は、譲渡された難民たちにとって、狭いながらもプライバシーを守ることができ、家族だけで過ごすことができる空間となった。難民たちの中には、さらなる自助努力により、壁となる部分を覆っているプラスチックシートを、より耐久性のある土ブロックや鉄板などに変えている世帯もみられる。プラスチックシートは、セキュリティ面や通気性、室内温度管理においては弱点があることから、難民世帯によっては木の枝を格子に編みこみ、その上に土を塗り付けるなど、快適性や安全性を求めて様々な工夫が行われており、これらの世帯に他の世帯が追随

	する動きがみられている。これらの作業により、仮設住宅の耐久性があがるだけでなく、オーナーシップの意識を向上させることができる。 また仮設住宅の建設では、難民とホストコミュニティの協働が継続して実現できており、本事業においても双方の対話の機会を提供することができたことから、両コミュニティの平和構築に寄与している。 ISSB ブロックの製造及び普及活動においては、ダダーブの土がブロックの製造に適しており、安価で耐久性に優れたブロックの製造が可能であることが研修生に十分に理解された。ビジネス講義への関心の高さも伺え、本事業終了後には研修生により3つの生計グループが設立した。引き続き「日本NGO連携無償資金協力」資金による後続事業では、本事業修了生192名を筆記試験で100名に絞り、ブロック製造技術とビジネスセンター建設を通じて建設技能も含めた訓練を展開していく予定である。
--	---